



環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

Newsletter No.233

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2025年4月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：小槻峻司)

住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 / Fax: 043-290-2024
URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

2025年度リモートセンシングコース新入生ガイダンス

令和7年4月4日に環境リモートセンシング研究センター（CEReS）内の講義室において、「新入生ガイダンス」を開催いたしました。春らしく穏やかな天気にも恵まれたこの日、大学構内の桜の見ごろとガイダンスの日が重なり、心も景色も晴れやかな一日となりました。

本年度、博士前期課程12名及び博士後期課程1名がリモートセンシングコースの新入生としてCEReSに加わりました。ガイダンスはヨサファットコース長の挨拶から始まり、ISO基礎研修、図書館の案内、コース教員紹介へと続き、楊学務委員から資料の内容に沿って研究指導体制・修了要件・履修注意事項などに関する説明がありました。皆さんがCEReS内の研究室を越えて交流を深め、そしてお互いを高め合いながら大いに研究に励んでいただきたいと思います。（楊 偉）



Météo-France、Observatoire Midi-Pyrénées/LEGOS 訪問 (R7.4.2-4)

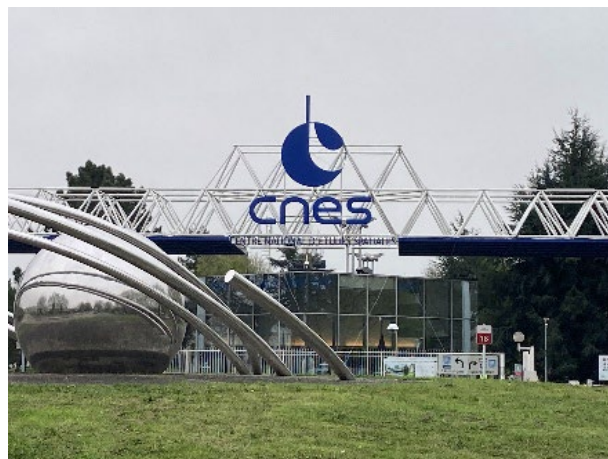
4月2、3日にMétéo-France、4月4日にObservatoire Midi-Pyrénées/LEGOSを訪問しました。いずれもフランス・トゥールーズにあり、近隣にはCNESやCNRSの関連施設が複数あります。Météo-Franceは3度目の訪問（最初の訪問はフランス同時多発テロ事件の翌々日というタイミングでした…）、Observatoire Midi-Pyrénéesは初めの訪問でした。

訪問の目的は、齋藤研究室でリトリバルアルゴリズムの開発を行っているGOSAT-2の一酸化二窒素（ N_2O ）と、CNRS/Météo-FranceのP. Ricaud博士およびトゥールーズ大学のJ-Luc. Attié教授が開発したリトリバルアルゴリズムで処理したIASIの N_2O の相互比較と、衛星 N_2O データを N_2O の収支推定モデルに同化して地表フラックスを最適化する研究についてのディスカッションです。GOSAT-2やIASIの熱赤外バンドは、残念ながら地表付近の大気分子の濃度にあまり感度はないのですが、たとえばIASIで観測した上層大気の N_2O データであっても同化することで N_2O の地表フラックスを最適化でき、大気中の N_2O 濃度の再現性も向上するという結果が得られています。GOSAT-2はIASIよりも下層大気の N_2O 濃度に感度があるため、GOSAT-2の N_2O データを同化することで、さらに地表フラックスを最適化できるのではないかと期待して共同研究を進めています。私はこれまで三度トゥールーズを訪れ、共同研究者のお二人も三度、千葉大を訪問してくれています。互いに行き来することで、メールのやり取りだけでは難しい詳細なディスカッションができ、今回も大変収穫の多い訪問となりました。

トゥールーズは、CNESの研究部門やエアバス本社など、航空宇宙産業で有名な都市ですが、「バラ色の街」と呼ばれる所以である赤レンガ造りの歴史ある建物が並ぶ大変美しい街です。やや肌寒い氣候でしたが、今回もトゥールーズの美しい街並みを楽しめました。(齋藤尚子)



Météo-Franceの正面ゲート



CNES研究本部。すぐ隣にObservatoire Midi-Pyrénéesがある

2025年度キックオフ ～ 小槻・岡崎研究室通信・第47号～

2025年度が始まりました。新たに学部4年生の村口・生方くん、博士1年生の林くん、技術補佐員の立石さんも加わり、4月時点の体制として総勢31名の大所帯になりました。今年度も引き続き、教育研究活動に熱意を持って取り組んでいきたいと思ひます。

毎年、1年のテーマを決めていますが、2024年度は「Reproducible Research Success」でした。1年かけて取り組んだ、論文の書き方、ミーティングの進め方、提案書の書き方、wikiの充実といった体系化の取り組みが実りつつあり、今年のメンバーは強いという感触があります。これで成果が出なければ、完全にPIの責任です。2025年度は成果を加速させる、生産の年にしたいと思ひます。

2025年度のテーマは、「Reinforce Positive Feedback」としました。研究も仕事も人生も、劇的なチャンスなどそうそう無く、できることは目の前の努力を重ね、その努力のポジティブフィードバックを起こしていくことだと思ひています。その一環として、今年から1月ごとに目標を決めて振り返る、Monthly Self Reviewという取り組みを始めます。青山学院大学の陸上部にinspiredされました。小さな試行錯誤・PDCAを重ね続ける。成果はその先にしかありません。

キックオフでは、研究員・学生が「論文書きます」と皆さん言っていたのが印象的でした。過度なプレッシャーを与えてないか心配もありますが、当たり前を引き上げていくのもPIの仕事です。今年も論文を書きましょう、は言い続けます。

またPIとしての裏のテーマは、組織としてティーチングからコーチングのステージに移行していくことです。組織論でPM理論というのがありますが、その本質はメンバーの独創性を信じ、そのアイデアを伸ばしていくことにあると思ひます。年を重ねるごとに、自分の知識・技術は本当に限られたものだと強く感じますが、メンバーの力を結集し、世界一の研究室へと飛躍させていきたいです。(小槻峻司)



図 研究室の2025年度・キックオフカンファレンスより

<今月の CEReS セミナー>

開催日：2025年4月16日

発表者：笹川 大河（ささがわ・たいが）さん（国際高等研究基幹・
特任助教、市井研・日本学術振興会特別研究員（PD））

タイトル：Satellite Ecology Approaches to Extensive and Synchronous
Flowering and Die-Off in Sasa / Other projects: PEN, GEO,
TRMM/GPM, etc...

（ササの広域同調的な開花枯死に関する衛星生態学的研究
／その他のプロジェクト：PEN、静止衛星、降水レーダー
による陸面観測、etc...）



当日のセミナーの様子